【算数科　指導略案】　　授業者　玉岡　正美
西本　貴宏

1　場所・単元名　　2年1組　教室　「長いものの長さのたんい」（使用教科書：東京書籍）

2　単元の評価規準・指導と評価の計画（全7時間）

知識・技能	①長さの単位（m）について知り、測定の意味を理解している。 ②長さについて、およその見当を付け、単位を適切に選択して測定している。
思考・判断・表現	①身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	①長さに進んで関わる中で数学的に表現・処理したことを振り返りそのよさに気付いて、生活や学習に活用しようとしている。

時間	主な学習活動と評価
1本時	「1m」という普遍単位について知り、活用する。（知①態①）
2	長さの普遍単位を活用して、長さを表現する。（知①）
3	身の回りのものの長さを見当付け、長さを確かめる。（知②　思①）
4 5	「長いものさしテープ」を作成し、色々な場所の長さを測定、記録する。（思①　○態①）
6	練習問題に取り組む。（知①②　思①）
7	単元テスト（○知①②　○思①）

「○」で示した評価規準を、記録に残す評価とする。

3　「遊び活動」と「教科学習」のつながりを意図した本時のポイント（10の姿をもとに）



8「数量や図形への関心・感覚」をもつ姿から、算数科を学習する姿へのつながり

［環境（教材）づくりと、援助の視点］

・幼児期の遊びを通した学びを想起し、「できそう！」「楽しそう！」「やってみたい！」という意欲を高められるよう、身体やテープ、1mものさしなどを活用しながら、長さの測り方を試行錯誤する体験的な活動を設定する。

・幼児期に、「育てているタケノコの高さ、身体のここまで伸びたよ！」等、身近なものの長さや高さを、身体を基準に捉えていた経験を想起できるようにする。また、対象物を「縦・横・斜め」など様々な向きから捉えることで、長さについて柔軟に考えられるよう援助する。

4　本時の目標と学習過程　第１時(１/７)「めざせ！１ｍピタリ賞！」

◎「１ｍ」という普遍単位を知り、身体を使いながら活用して長さを測定する。(知①　態①)

時間(分)	主な学習活動	「環境(教材)づくり」と「援助」の視点・評価
10	○教室の横の長さについて考え１ｍという普遍単位について知る。めあてを確認する。	教室の横の長さって何ｃｍだと思う？ 長過ぎる！ｃｍだと測るのが大変だよ！ 長いものの長さを測る時は、「ｍ」という単位を使います。教室の中で、１ｍの長さを見つけてみよう！ ・水のかさ(ｄＬ→Ｌの活用)の学習と関連付けて考えられるようにする。 １ｍピタリしょうをめざそう！
15	○「１ｍ身体ものさし」を作って、教室の中で１ｍぴったりの長さを見つける。(班で協力) 	班で協力して「１ｍ身体ものさし」をつくろう！教室の中で、１ｍぴったりの長さは見つかるかな？ 幼児期の姿 ⇒ 教科学習での姿 「育てているタケノコの高さ、身体のここまで伸びたよ！」等、身体を使って長さの量感を捉えていた姿。 ⇒ 身体を使って長さの量感を捉え、教室の中の「１ｍの長さ」を捉えようとする姿。 ・机を２つ繋げると、１ｍぐらいかな？ ・ランドセルを２つ合わせると、１ｍぐらいじゃない？ ・ほうきの長さが１ｍくらいかも！ (体験的活動) [環境(教材)づくり・援助] ・測り方を試行錯誤しながら考え、量感を獲得するため、身体を使って測定する活動にする。 ・１ｍだと思う長さの端から端まで印をつけられるような掲示物を用意する。 ・子どもたちが、ロイロノートで測り方の写真や動画を撮り、全体共有しやすいようにする。 評価規準 ・知①態①(行動観察)
15	○見つけたものを交流する。(全体) ここからここまでの長さを○○して測ったら１ｍだったよ！ ・ものさしをたくさん繋げたら確かめられるよ！ ・３０㎝の３つ分と、１０ｃｍだから、合わせて１００ｃｍだ！	見つけた「１ｍぴったり」を伝え合おう！ ・ロイロノートの画面を共有しながら、測った方法も合わせて交流できるようにする。１ｍテープを合わせて確かめる。 これまで学習したｃｍを使うと、１ｍって何ｃｍなんだろう？どうやって確かめたら良いかな？(学びを深める問い) １ｍは大体～くらいの長さと分かったね！そして、１ｍ＝１００ｃｍなんだね！(本時のまとめ)
5	○振り返り問題に取り組む。(ロイロノート)	